

# 彩菜栽

2017年  
10月

## 取れ立ての新鮮な味が格別な サヤエンドウ



栽培管理が楽で、失敗も少ないサヤエンドウ。店頭売りでは得られない新鮮さが魅力で、家庭栽培にはぜひ取り入れたい野菜です。  
カロテン含有量が多く、分類は緑黄色野菜。ビタミンC、食物繊維も豊富。使い道はサラダや汁の実、煮物にと広く、飽きずに重宝します。育て方のポイントを列挙します。

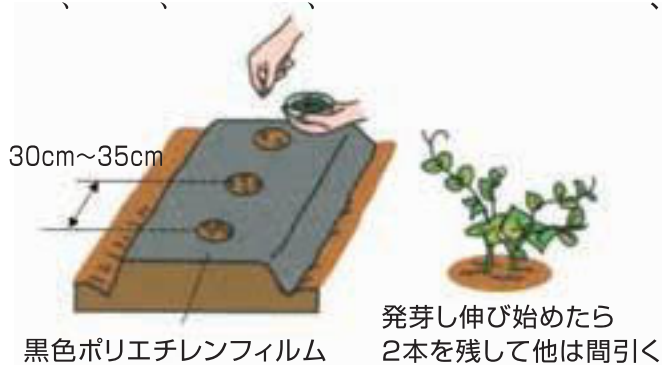
- (1) 連作畑を避ける
  - (2) まきどきを誤らない
  - (3) 冬に株が風で振り回されないよう、う仮支柱、風よけを設ける
  - (4) 伸びだしたつるがよく絡むよう、しっかりとした支柱を立てる
- サヤエンドウは野菜の中でも特に連作を嫌う性質があります。4〜5年はサヤエンドウを作ったことのない畑を選びましょう。
- 種まきの適期は10月20日前後ですが、寒い地域では少し遅く月末ぐらい、暖かい地域では少し早くまくぐらいに差をつけましょう。
- サヤエンドウは茎葉が柔らかく、越冬中に株が風に振り回され、茎が折れたり枯死したりしやすいので、草丈が15〜20cmに伸びたら短い支柱

を交差させて立て、株を固定したり、畝に沿って稲わらを半折れにし、下方を土に埋め、簡単な風よけを作ったり、べた掛け資材で覆ったりして寒風から守ってやります。

越冬後草丈が20cm〜25cmぐらいになる頃には巻きひげも出るのです、早めに支柱を立て、これに絡ませるようつるを誘引してやりましょう。支柱としては、細枝のたくさん付いたササや、子枝の付いた木の枝などが最良ですが、入手できない場合は、木杭に横竹を渡し、所々に稲わらを

小束にしてつるす方法、それらがなければ果菜用の支柱材を立て、横に3段ほどプラスチックひもを渡したり、キュウリの誘引ネット(網目15cm)を取り付けるなど、いろいろ工夫してみてください。

肥料分は多くは必要ないので、前作に野菜を育てた畑なら、越冬前に畝に沿って軽く溝を作り、1株当たり化成肥料大さじ2杯ぐらい、本支柱を立てた後に、畝の反対側に同量を施し、土を盛り上げて畝を形作るぐらいで足ります。



ハモグリバエの  
幼虫の加害



薬剤散布